

キャリア支援と看護師国家試験対策指導の実際と課題 － 看護学部の就職委員会の取り組みを中心に －

大久保仁司 深谷由美 林和枝 高橋由美子 尾関唯未 近藤裕子 白木京子

岐阜聖徳学園大学看護学部

Career support and the actual situation and challenges of preparation strategies for the national nursing examination:

Focusing on efforts by the employment support committee
in the Faculty of Nursing

Hitoshi OKUBO, Yumi FUKAYA, Kazue HAYASHI,
Yumiko TAKAHASHI, Yumi OZEKI, Yuko KONDO, Kyoko SHIRAKI

キーワード：キャリア支援 看護師国家試験 学習支援

I. はじめに

看護師国家試験は、年に1回2月中旬に実施される。近年の看護師国家試験の出題傾向として、従来の知識確認型であったものから、統合力、いわゆる看護アセスメント能力が必要になった上、5者択2の出題も増えるなど単に知識だけでは解答が困難な状況になっており、今後も出題基準が変更され、難易度が増していくと考えられる¹⁾。また、看護師国家試験の問題は、「保健師助産師看護師国家試験出題基準」に沿って作成され、基礎的な知識を問う「必須問題」、出題基準に定められた11科目について、一問一答式で出題され、知識を問う問題に加え、短文の事例問題を問う「一般問題」、出題基準に定められた7科目について、看護の場面で直面しうる状況を設定し、それに対する理解力・判断力を問う「状況設定問題」の3つで構成される。合格基準は、絶対評価である必須問題の80%以上の正答率と、相対評価である一般問題・状況設定問題の正答率で合否が決定される²⁾。そのため、学生は4年間の学習を通して、看護師としての基礎的な知識・技術はもちろん、知識と技術を応用した看護実践能力を身に付ける必要がある。看護学部のカリキュラムは、学年が進むごとに看護実践能力が身に付けられるように組み立てられているが、履修科目の単位を取得するための学習だけでは国家試験合格水準の応用力が身につけにくい状況であり、入学当初から学生自ら4年後の自分の将来像を考え、看護師国家試験合格に向けた継続した取り組みが重要である。

このことを踏まえて、本学看護学部では、開設初年度より看護学部就職委員会が中心になり、学生自身が卒業後の自分の将来像を確立し、その絶対条件となる看護師国家試験合格に向けた継続した学習方法を身に付けられるように支援を行った。その結果、看護学部1期生は無事に看護師国家試験に全員合格することができた。そこで、本稿を通じて、この4年間の支援の内容を総括し、より充実したキャリア支援・国家試験対策指導につなげていきたいと考える。

II. キャリア支援と国家試験対策の実際

1. 4年間の年次計画策定と年次目標について

初年度に就職委員会が中心になり、各学年の到達目標（表1）と4年間の年次計画（表2）を作成した。この目標設定については、単なる国家試験合格に向けた目標だけにとどまらず、看護学生としてこの4年間でどう成長すればよいかについて、大学の建学の精神やカリキュラムポリシーなどを考慮しながら目標を設定した。また、その目標について、看護学部教授会で合議すると共に教員間で支援方針の情報共有を行い、就職委員会教員だけでなく、看護学科教員全員が共通して支援ができるようにした。

表 1 各学年の到達目標

1 年 次	1) 仏教精神を基調にした「平等」「寛容」「利他」の価値観を身につける。 2) 本学で学ぶことができること、及び取得可能な資格とその仕事について理解する。 3) 看護学部の学生として、基本的な学習方法を身につける。 4) 専門基礎知識を学修する。 5) 履修している科目の予習復習ができる。 6) 専門職業人として求められるマナーを身につけることができる。
2 年 次	1) 看護に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。 2) 自己分析ができ、将来なりたい専門職業人像を具体的にイメージできる。 3) 自己の将来なりたい専門職業人像の実現のための学習課題を明らかにし、学習計画を立案できる。 4) 自己の将来なりたい専門職業人像の実現のために、学部教育課程を選択できる。 5) 国家資格取得（看護師・保健師）に向けた学習を計画立案できる。
3 年 次	1) 看護実践力を身につける。 2) 社会が求める専門職業人像について、実習等を通して学ぶ。 3) 自己の将来なりたい専門職業人像の実現のために、自己の課題について継続して取り組むことができる。 4) 国家資格取得（看護師・保健師）に向けた学習計画を立案し、継続した学習ができる。
4 年 次	1) 社会人としてふさわしい態度を身につける。 2) 対象に応じた高度な看護実践力を身につける。 3) 自己のなりたい専門職業人実現のために、進路を選択し、就職先を決定できる。 4) 国家試験（看護師・保健師）に合格できる。 5) 養護教諭1種免許状が取得できる。

2. 各学年の支援内容について

看護学部就職委員会の委員の中から各学年担当教員を2名選定し、その学年担当教員が中心となり、表1の各学年の目標を踏まえた年間支援計画を策定した。策定にあたり、該当学年の学生に働きかけ、国家試験対策学生委員を募り立候補制で選出し、クラス代表として学年のキャリア支援や国家試験対策について要望を取りまとめ教員側に伝えてもらって、支援策が学生のニーズが最大限計画に反映されるように努めた。また、学生同士の自主的な組織運営を目指し、国家試験対策学生委員が中心となり、自分たちで学ぶ環境を整え、学習会など通じて学生自らが目標達成に向けて努力する仕組みづくりを支援した。この取り組みのねらいは、医療職を目指す学生が1年次の早い段階から、学生自らが専門職業人を意識し、誰かに言われたからという受動的な行動ではなく、自分のこととして能動的に取り組めるようにしたこと、さらに、学生同士が学び合うことができるようにするためである。

表 2 4年次の年間計画

	第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			
目標	・学習方法を身につける ・現在履修している科目の予習復習ができる			・自己の学習に関する課題を明らかにできる。 ・国家試験に向けた学習習慣を身につける			・国家試験対策に向けた学習計画を立案し計画的に継続した学習ができる。			・国家試験合格			目標
	模範試験 実者模試	教習	学内教員	模範試験 実者模試	教習	学内教員	模範試験 実者模試	教習	学内教員	模範試験 実者模試	教習	学内教員	
4月			ガイダンス(目標設定)			・ガイダンス(目標設定) ・週一回(90分)学習支援	看護師模範試験		・ガイダンス(目標設定) ・週一回(90分)学習支援			・ガイダンス(目標設定) ・週一回(90分)学習支援 ・キャリアニング(後援部) ・キャリアニング(後援部) ・受験対策(小論文・面接)	4月
5月													5月
6月										看護師模範試験			6月
7月													7月
8月				看護師模範試験			看護師模範試験	夏季集中講座(10コマ)		看護師模範試験	看護師夏季集中講座(20コマ) ・保健師集中講座(8コマ)	看護師集中講座(10コマ) ・保健師集中講座(4コマ)	8月
9月	個別生理解説 模範試験解説講座		・ガイダンス(中間評価) ・週一回(90分)学習支援			・ガイダンス(中間評価) ・週一回(90分)学習支援			・ガイダンス(中間評価) ・週一回(90分)学習支援			・ガイダンス(目標設定) ・週一回(90分)学習支援	9月
10月					対策講座(10コマ)					看護師模範試験			10月
11月													11月
12月													12月
1月	看護師模範試験	模範試験解説講座		看護師模範試験			看護師模範試験 ・保健師模範試験			看護師模範試験 ・保健師模範試験	看護師直前集中講座(20コマ) ・保健師集中講座(12コマ)	看護師集中講座(10コマ) ・保健師集中講座(8コマ)	1月
2月												自己採点会(看護師・保健師)	2月
3月			ガイダンス (目標評価と次年度の計画)			ガイダンス (目標評価と次年度の計画)			ガイダンス (目標評価と次年度の計画)				3月
備考	※教員による学習支援は、自主参加による学生中心の学習会の支援と模範試験結果による後援部44以下の学生の強制学習支援の2通り、いずれも、週一回定期的に就職委員会教員を中心に支援を行う。			※教員による学習支援は、自主参加による学生中心の学習会の支援と模範試験結果による後援部44以下の学生の強制学習支援の2通り、いずれも、週一回定期的に就職委員会教員を中心に支援を行う。			※教員による学習支援は、自主参加による学生中心の学習会の支援と模範試験結果による後援部44以下の学生の強制学習支援の2通り、いずれも、週一回定期的に就職委員会教員を中心に支援を行う。			※教員による学習支援は、自主参加による学生中心の学習会の支援と模範試験結果による後援部44以下の学生の強制学習支援の2通り、いずれも、週一回定期的に就職委員会教員を中心に支援を行う。また、後期には各領域の教員における国家試験対策講座を毎年実施する。 ※集中講座についても、各領域ごとの代表者が出席傾向に応じた個別講座を行う。 ※小論文・面接対策は、就職課・支援室・教員とが連携しながら実施する。必要に応じ実習も活用する。			備考

3. 看護学部1期生の支援の実践について

1) キャリア支援の実践

1期生には表3の通りキャリア支援ガイダンスを実施した。

表3 1期生のキャリア支援ガイダンス実施内容

学年	実施時期	キャリア支援	詳細内容
1年次	11月	ガイダンス①	国家試験学生対策委員の募集 目標管理シート作成
	1月	ガイダンス②	保健師・養護教諭の講演
2年次	4月	ガイダンス③	目標の振り返りと2年次の目標の設定
	8月	ガイダンス④	目標の中間評価と後期の目標の設定
	3月	ガイダンス⑤	先輩看護師の看護観聴講
3年次	4月	ガイダンス⑥	2年次の目標評価と3年次の目標設定
	9月	ガイダンス⑦	目標の中間評価と後期の目標の設定 就職活動に向けたガイダンス（インターンシップ）
4年次	4月	ガイダンス⑧	3年次の目標評価と4年次の目標設定 就職活動に向けたガイダンス（就職希望先決定） 進路希望調査 国家試験受験対策にむけて
	9月	ガイダンス⑨	目標の中間評価と後期の目標の設定
	2月	ガイダンス⑩	国家試験受験激励会
	2月	ガイダンス⑪	国家試験自己採点会

キャリアガイダンスでは、各学年の4月に学年ごとに設定した全体の目標を受けて、学生自身が自己の目標としてこの1年をどのように過ごしたいと考えているのかを目標として明文化した。また、その目標の達成状況を前期終了後に中間評価を行い後期に向けての目標の修正を行い、学生自身が年間を通じ自己のキャリアアップのための目標を達成することの意味を実感できるようにした。

さらに、本看護学部は、看護師課程をベースに、選択課程として保健師課程・養護教諭課程の道があるが、その進路選択についてもカリキュラムの構成により1年生の早期の段階から選択する必要があるため、1年次の後期には、実際の現場で働く保健師・養護教諭をゲストスピーカーとして招聘し、それぞれの仕事の内容の紹介やそこでのやりがい等の講演を聴講し、質疑応答の時間を設け、職業探求につながるように計画した。また、2年次には、各領域別実習が次年度の後期から開講されるのを踏まえ、自己の目指す看護職についてより職業探求ができるように、現場で働く新人看護師から師長などの管理職の看護師をゲストスピーカーとして招聘し、1年次の保健師・養護教諭の講演と同様にそれぞれの仕事の内容の紹介やそこでのやりがい等の講演を聴講したあと、それぞれの演者ごとにブースを作成し、自由に質問できる意見交換・質疑応答の時間を設けた。これらのキャリアガイダンスの大枠は教員が計画したが、その運営は国家試験対策学生が中心になって行えるよう支援し、この運営を通して学生が社会性を身に付けることができるようにした。

3年次からは、インターンシップ等に積極的に参加し、就職希望先の選定などが求められる。そのため、早い段階から学生が抱いている将来像の自己実現に向けて就職先を選定し合格できるように、自己の進路について考えられるようにガイダンスを実施し、積極的にインターンシップに参加するなどして職業探求を実施するように支援した。さらに、後期に開講される領域別実習を履修する中で自己の看護観を明確にし、自分が進む分野の探求ができるよう支援した。

4年次になってからは、進路希望先の決定とそれに応じた受験対策（履歴書・小論文・面接の各対策）

を就職課事務局と連携し実施した。進路希望決定にあたっては、学生のニーズを踏まえて、その病院の傾向を踏まえた準備が行えるように指導した。また、目先の就職だけにとらわれず、看護師としてのキャリアを考え、その施設で就職することで実現可能かどうかを見極め進路決定するように指導した。

2) 業者利用による国家試験対策（模擬試験・集中講座）の実際

1 期生に対して、表 4 の通り模擬試験と対策講座を企画・実施した。模擬試験の業者選定、集中講座の講義内容についても、時期はあらかじめ委員会側で決定したが、実際の業者選定や内容については、国家試験学生委員に、クラスの代表として意見の集約を図り、可能な限り学生の意見を反映し、自らが取り組むという意識が持てるように配慮した。

(1) 1・2 年生次の対策

講義で展開される専門科目・基礎科目の知識の確認と統合力を身に付けることを主眼に計画した。

(2) 3 年次の対策

3 年次後期の各領域別実習では多くの知識が必要とされることから、実習開講前の夏休みの前半に外部講師を招き、夏期特別講座 11 コマ計画し、解剖生理学、病態治療学の理解を深める機会を提供した。その後、実習に向けて事前学習ができるように計画した。

(3) 4 年次の対策

年 4 回の模擬試験と 2 回に分けて対策講座を計画した。前半は、基本的知識が問われる必須問題の得点率の向上を図るために基礎的学力の確認と強化を目的に、模擬試験では自己の基礎学力を問う問題を採用、また、対策講座もその模擬試験の結果を踏まえた学生のレディネスに応じた講義展開になるように業者に依頼し、本学学生の学力に応じた基礎学力向上を目指した講義を計画し実施した。また、後半は、これまでの基本的知識の強化に加えて、一般問題はもちろんのこと、状況設定問題に対応することができるため応用力の強化を目指して、模擬試験の設定と対策講座を計画し、実施した。

模擬試験業者選定する際には、各業者の傾向を分析し、学生のレディネスに応じた業者選定をすると同時に、複数の業者の模擬試験を採用することで、学生の客観的な学力の定着率の判定をすることができるようにした。また、対策講座は前半同様に模擬試験結果を踏まえた学生のレディネスに応じた計画にすると同時に、業者が持つ最近の出題傾向を踏まえ国家試験合格に向けた応用力に繋がるような講義内容を計画し、実施した。そして、毎回の講義の最後に小テストを実施してもらい、学生の理解度を確認しながら講義を進行してもらうことを依頼し、実施した。

表 4 1 期生の国家試験対策の実施内容

学年	実施時期	キャリア支援	詳細内容
1 年次	4 月	模擬試験①	基礎学力試験
	1 月	模擬試験②	解剖生理学 (A 社)
		対策講座①	模擬試験②の解答解説講座 (A 社)
2 年次	8 月	模擬試験①	低学年模試 (B 社)
	1 月	模擬試験②	低学年模試 (B 社)
3 年次	5 月	模擬試験①	専門基礎 (A 社)
	9 月	対策講座①	基礎学力アップ講座 (10 コマ)
		模擬試験②	基礎学力 (C 社)
	3 月	模擬試験③	必須問題模擬試験 (D 社)
		模擬試験④	国家試験模試 (E 社)
4 年次	6 月	模擬試験①	国家試験模試 (A 社)
		対策講座①	基礎学力アップ講座 (A 社)
	8 月	模擬試験②	必須問題模擬試験 (E 社)
	11 月	対策講座①	国家試験対策講座 (A 社)
		模試試験③	国家試験模試 (D 社)
	1 月	模擬試験④	国家試験模試 (A 社)

3) 教員による国家試験対策（日々の学習支援）の実践

就職委員会教員を中心に、日々の学習支援を実施した。また、4年次には、ゼミ担当教員との連携を強化し、学部全体で学生の学習支援を実施した。

(1) 1・2年次の対策

国家試験学生対策委員が各学年の中心になり、自発的に学生の講義の空き時間を利用した週1回の自習学習会を計画し、その運営も学生中心に行ってもらった。教員はその運営にあたる国家試験学生対策委員の学生のサポートをすることに専念し、会の運営が円滑にいくように支援した。また、学生に対し学習方法などの専門的なアドバイスを行った。その中身は、学習会の過程で生じる疑問について支援を行ったのはもちろんのこと、学習会だけでなく、普段の講義における学習方法の相談や学習とプライベートの両立をどのようにしていくかなど、多岐にわたる内容であった。

(2) 3年次の対策

前期は1・2年次同様、国家試験対策学生委員を中心に、週1回の自主学習会を開催し学習支援を行った。支援の内容は、過去の模擬試験を実施、機能別看護について講義（全6回）で、自主学習を促した。また、学生が、受験した模擬試験の結果の自己分析を行い、結果と分析結果をアドバイザー担当教員に指導を受けられるように調整し、学生がその結果をみずから振り返って個別のアドバイスを受けられるようにした。

(3) 4年次の対策

前期は、国家試験学生対策委員が中心になり、自主学習会を計画し実施しできるよう支援をした。4月～6月については、学生の希望に応じ、国家試験に関連するDVDによる学習会を週1回実施した。また、9月からは、3年次3月と4年次6月に実施した業者模試の結果で、判定がCまたはD判定の学生と学習支援希望者加えた要支援学生22名を選定した。学生には、学習計画書（図1）を用いて、月間の学習計画を作成するように指導し、また、ゼミの担当教員が該当学生に対して月2回の個別指導が受けられるように調整し、学生の計画の進捗状況とそれに応じた個別性のある個別指導が受けられるよう支援した。また、就職委員会としても、該当学生がグループで週一回集まれるように自主学習会を計画し、ここでも学習の支援を行った。

さらに、12月からは、11月実施の模擬試験の結果で成績の改善が見られないC判定とD判定の学生と前回の要支援該当学生を要支援学生と重点支援学生として決定した。その要支援学生には9月の支援方法を継続し、新たに設定した重点支援対象学生（C判定5名、D判定6名）には、月曜日から金曜日の9時から16時半まで学習会にできるようにした。そして、出席状況を就職委員会の教員が確認し、同時に学生が立案した日々の学習計画（資料2）を確認し、学生の目標とその目標が達成できるかアドバイスし、学習会終了時にも学生自身の目標と計画の達成状況を確認し、帰宅後の自主学習と翌日の学習会での課題を学生と一緒に確認するようにした。さらに、この期間中に、全ての4年生に対して、各領域（自然科学、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、公衆衛生学、在宅看護論）の教員による質問会を各領域2コマ計画し、自己学習を進めていく中で、解説や自己での学習で解決できない問題に対する疑問に対して質問できるようにした。また、要支援学生には、就職委員会学年担当教員によって、該当学生の学習計画の立案と計画の実施状況（資料1、資料3）について期間中3回の面談を行い、計画の進捗状況を確認し継続して学習が進められているかの支援を行った。

国家試験直前の2月には、4年生の看護師国家試験の受験生全員に対して、看護学部教員で激励会を開催し、国家試験当日とその日までのこれからの過ごし方についてアドバイスを行った。

Ⅲ. 結果

1期生の就職内定状況の内訳は、看護師職53名、保健師職2名、養護教諭1名（非常勤）で、学生全員が希望している職種での就職が決定した。また、看護師国家試験についても、56名全員合格し、合格率100%が達成できた。模擬試験の偏差値の推移（図1）でみると、1年次から3年次の学校別の偏差値は40.2～51.2で、50を下回ることもあったが、4年次の模擬試験では、すべて51以上の成績をキープし、最終の直前模試では、54.8%となった。

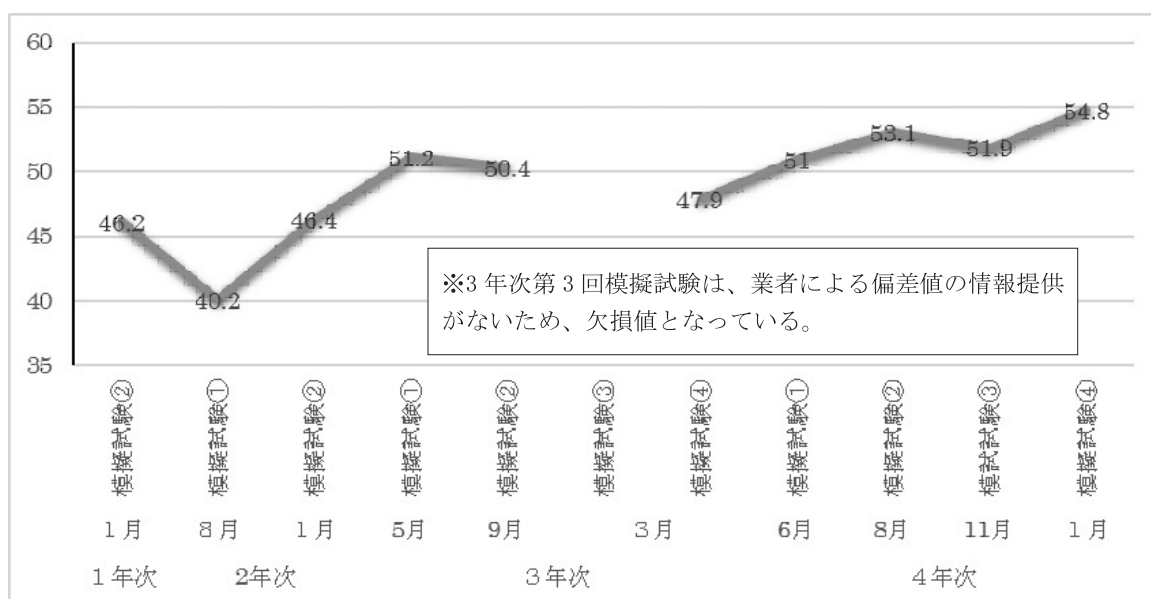


図1 1期生4年間の模擬試験学校別偏差値の推移

IV. 考察

1期生は、看護師国家試験に全員合格し、全員が希望する職種と施設での入職を果たした。これまでの就職委員会としての取り組みの一定の成果であると考え。ここで4年間の支援の内容について、振り返り次年度以降の支援の在り方を検討する。

大学等への進学率³⁾が、54.7%（令和元年度；学校教育基本調査[速報値]）となり、2人に1人は大学に進学していることになる。このような進学の現状が教育環境に著しい変化を与え、大学生の学力低下、学習意欲の低下などが問題となっている⁴⁾。それに伴い、柳井⁵⁾は、中西（1985）による大学生の職業的同一地位の測定結果⁶⁾より、現代の大学生は、モラトリアム地位と同一性拡散地位による職業未決定の割合が高く、将来のことはあまり考えず卒業を迎えてしまうことも少なくないとしている。しかし、看護師をはじめ医療系の大学に進学する学生は、高校生時代に自分の将来の職業を決定し、それに応じた大学、あるいは、学部を選択し進路を決定することになる。また、大学とはいえ、看護系の大学は、厚生労働省による保健師助産師看護師学校養成所指定規則による科目の基準があるため、その大多数が必須科目、あるいは、選択必須科目として指定されており、1年次より専門的な科目が開講され、実習を含めると過密なスケジュールとなる。さらに、大学では専門学校とはことなり、領域別で教員が配置されており、講義もそれぞれの専門領域の教員が講義することになることから、学生は既習の学習を踏まえて、それぞれの科目を自力で統合していかなければならない。しかし、医療・看護を学ぶ初学者にとっては、知識を統合していくことは困難であると言える。そのため、その統合力を補うために、1年生のはやい段階から、模擬試験とその解説講座を設定することで、科目の講義で補いにくい統合力を身に着けることにつながり、基礎学力の向上につながったと考えられる。また、様々な業者の模擬試験や講座を採用することで、それぞれの業者も持っているノウハウを偏りなく身に着けることが出来たと考える。

柳井⁷⁾は、大学生の学習意欲の開発には、①目的意識を育てる、②自己概念の形成をはかる、③社会的役割と形成の自覚をはかる、④知的好奇心を育てることが、学生のキャリア発達に繋がると述べている。初学者である学生にとって、全ての事柄について目標設定を自己によってする事は困難であるが、学習支援者である教員が大枠を設定し、その中で学生自らが目標を設定し、その目標に向かって学習する自己決定型学習⁸⁾を推進したこと。さらに、国家試験学生委員を選出し、学生が主体となって課題に取り組むことができるようにしたことで、看護師に求められる問題解決能力と生涯学習による自己探求能力、さらにチーム連携能力を身に付けることのできたのではないかと考える。

一方で、その対策を講じて、学力が向上しなかった学生が存在し、特に最高学年ですべての取得す

べき単位の学習を終了した12月の模擬試験の結果で、D判定となった学生が6名いたことについては、学生の底上げにつながる対策に繋がっていなかったと言える。また、その意味するところは、4年間の学習で看護師に必要な知識・技術・態度が取得できていなかったことが伺える。これらのことを踏まえ、就職委員会を中心にしたキャリア支援のあり方の検討だけにとどまるのではなく、看護学部全体の学生に対する教授方法を再検討し、学生が1年次より看護師に必要な知識・技術・態度が確実に身につくようにするために、各領域において学習における一貫性を創出し、学生への質問を活用し、実践の予行演習を設定し、学習の振り返るといった、学生の重要性・非重要性の識別力を育成する教育戦略⁹⁾を組み込んだ看護教育を実践していく必要があると考える。

V. 終わりに

医療は日進月歩発展し続けていく。その医療に携わる看護師は、自分を律しその進歩に対応できるように生涯学習を通して自己研鑽をし続けなくてはならない。また、知識だけではなく、人としての教養や人間性も探求し続けることが重要である。国家資格に合格し免許を取得し、就職すれば、新人看護師であっても看護師としての能力を求められるようになる。これは当然の事だが、学生というある意味護られた組織の中で過ごした学生が、臨床に出た際には、自分のできなさや求められる内容の大きさにリアリティショックを受けてしまい職場に適応できなくなる場合や、最悪な場合は離職に繋がっていく。さらに、場合によって、看護師という仕事から遠ざかってしまう新人看護師もいるほどである。患者の権利擁護者として、看護師としての能力を発揮し続けることができるようにするためにも、自己の課題意識をもち、それを自分で乗り越えていける力を身に付けることが重要であり、それが看護基礎教育におけるキャリア支援の大きな目的であると考え。今後もさらに趣向を凝らし、学生が自己にて自信をもって学び続けることができる支援を継続していきたい。

注・文献

- 1) 厚生労働省：「保健師助産師看護師国家試験出題基準 平成30年版」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000158926.html> (2019. 10. 14閲覧)
- 2) 東京アカデミーHP：「看護師国家試験試験対策講座／看護師国家試験情報」
<https://www.tokyo-ac.jp/nurse/info-exam/> (2019. 11. 28閲覧)
- 3) 厚生労働省：学校基本調査（令和元年速報値）
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000158926.html> (2019. 10. 14閲覧)
- 4) 柳井修（2001）：キャリア発達論，青年期のキャリア形成の進路指導の展開，中西出版，97.
- 5) 柳井修（2001）：前掲書4），167.
- 6) 中西信男（1985）：職業的同一性を拡散した学生たちの背景，青年心理，49，14-20.
- 7) 柳井修（2001）：前掲書4），109-111.
- 8) 大野曜（2006）：学習支援ハンドブック，協働の時代の学びと実践，財団法人日本女性財団，38-60.
- 9) パトリシア ベナー他，早野 ZITO 真知子訳（2011）：ベナー ナースを育てる，医学書院，第7章.

資料1 月別学習計画作成シート

月 国家試験学習計画						
担当教員		学籍番号		氏名		
今日の目標						
日にち	曜日	実習・テストなど予定	学習 予定時間	学習計画	学習 実施時間	実施
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
担当教員コメント (/) 中旬						
サイン ()						
今日の振り返り						

日にち	曜日	実習・テストなど予定	学習 予定時間	学習計画	学習 実施時間	実施
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
担当教員コメント (/) 下旬						
サイン ()						
来月の目標						

資料2 日々の学習計画

国家試験対策 日々の計画

日々計画的に学習しましょう！
時間を決めて休憩をしましょう

担当教員		学籍番号	
/ ()			
本日の学習目標			
担当教員サイン()			
<p style="text-align: center;">本日の計画</p> <div style="display: flex;"> <div style="width: 10%;"> <p>9:00</p><p>10:00</p><p>11:00</p><p>12:00</p><p>13:00</p><p>14:00</p><p>15:00</p><p>16:00</p> </div> <div style="width: 90%;"> <p>担当教員に本日の計画を伝える</p> <p>担当教員に本日の学習を報告</p> </div> </div>	<p style="text-align: center;">本日の学習状況と振り返り</p> <p style="text-align: center;">自宅での学習予定(時間・内容)</p>		
先生からのアドバイスを記載(学生が記載)			
担当教員サイン()			

資料3 国家試験直前計画作成シート

国家試験対策

担当教員		学籍番号		氏名	
今までの学習方法と振り返り(1日の平均学習時間・学習方法)					
今後の学習方法(1日の平均学習時間・学習方法)					
年末年始の学習目標			1/10～2/17学習目標		
<p>1日の生活スケジュール ①</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>3</p><p>15</p> </div> <div> <p>6</p><p>18</p> </div> <div> <p>9</p><p>21</p> </div> <div> <p>12</p><p>24</p> </div> <div> <p>15</p><p>3</p> </div> </div>					
<p>1日の生活スケジュール ②</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>3</p><p>15</p> </div> <div> <p>6</p><p>18</p> </div> <div> <p>9</p><p>21</p> </div> <div> <p>12</p><p>24</p> </div> <div> <p>15</p><p>3</p> </div> </div>					